

インフラ自分ごと検討会
基調報告

書籍の反響から考える インフラの自分ごと化

2026年4月16日

日本大学工学部
岩城一郎

日本のインフラ**危機**
岩城一郎

「老朽化」という
今そこにある現実

道路 トンネル 水道
鉄道 橋 **全国
当事者!**

なぜ次々に事故が起きるのか？
お金も人も足りない…打つ手はあるか？

私たちの暮らしを
揺るがす「大問題の正体」

講談社現代新書

報告内容

- 「日本のインフラ危機」（講談社現代新書）の発刊経緯
- 書籍の内容・反響
- 日本のインフラ危機を脱するには？
- インフラを自分ごと化するには？
- まとめ

「日本のインフラ危機」 （講談社現代新書） 発刊の経緯

- 東日本大震災前，当時の政権下で掲げられた「土木から人へ」というキャッチコピーが躍る中，内向きで傷をなめ合う業界の体質に強い危機感を抱いた。
- これを契機に，土木分野から国民への発信の重要性を痛感し，一念発起した。
- その後，様々なメディアに登場するも，いずれも一過性にとどまる印象を拭えず，模索を重ねる日々が続いた。
- そうした中，2024年6月に講談社編集者佐藤慶一氏より執筆のオファーを受け，即座にこれを快諾。数か月後にドラフトを提出したが，「教壇を降りてください！」との指摘を受け，試行錯誤を重ねた。
- 難産の末，2025年12月に本書の発刊に至る。

全国民当事者！

「崩壊」は突然、やってくる……！

なぜ全国各地で次々に事故が起きるのか？
お金も人も足りない……打つ手はあるのか？

**意外と知らない
「老朽化」という現実**

図表1-5 建設後50年以上経過するインフラの割合



見て見ぬフリはもうできない!

私たちの暮らしを揺るがす

「大問題の正体」を

豊富なデータと事例から解き明かす

都道府県別	未実施	補修必要	未実施率 (%)
北海道	70	32	30
青森県	69	31	53
岩手県	66	108	61
宮城県	63	32	20
秋田県	63	18	26
山形県	49	21	22
福島県	35	21	27
茨城県	281	469	15
栃木県	273	27	15
群馬県	273	27	15
埼玉県	159	377	15
千葉県	147	377	15
東京都	145	604	15
新潟県	145	604	15
富山県	145	604	15
石川県	145	604	15
福井県	145	604	15
山梨県	145	604	15
長野県	145	604	15
岐阜県	145	604	15
静岡県	145	604	15
愛知県	145	604	15
三重県	145	604	15
滋賀県	145	604	15
京都府	145	604	15
大阪府	145	604	15
兵庫県	145	604	15
奈良県	145	604	15
和歌山県	145	604	15
徳島県	145	604	15
香川県	145	604	15
愛媛県	145	604	15
高知県	145	604	15
福岡県	145	604	15
佐賀県	145	604	15
長門県	145	604	15
熊本県	145	604	15
大分県	145	604	15
鹿児島県	145	604	15
沖縄県	145	604	15

インフラを知ること 国や社会の土台を知ること

【目次】

- 第1章 日本のインフラはどうなっているのか？
- 第2章 インフラはどのように劣化するのか？
- 第3章 「良いインフラ」をどう造るか？
- 第4章 「今あるインフラ」を長持ちさせるには？
- 第5章 地域のインフラはみんなで守る
- 第6章 インフラの「残された課題」

日本のインフラ危機
岩城一郎

「老朽化」という
今そこにある現実

道路

トンネル

水道

鉄道

橋

全国民
当事者!

なぜ次々に事故が起きるのか？
お金も人も足りない…打つ手はあるか？

私たちの暮らしを
揺るがす「大問題の正体」

講談社現代新書

執筆にあたり心掛けたこと

- 教壇からの目線ではなく、教壇を降りて、家族や友人に語り掛けるように執筆したこと。
- 経済の専門家ではなく、橋梁やコンクリート構造物といったインフラの材料・構造を専門とする立場から、インフラの性能に基づいた、単なる評論（危機をあおるだけ）にとどまらない解説を行っていること。
- 豊富なデータ（エビデンス）と具体的な実例をもとに、インフラの現状を的確に捉えるとともに、その将来像と解決策について論じていること。
- インフラメンテナンスを身近な医療に置き換えたアナロジーを用いることで、市民にも直感的かつ分かりやすく理解できるよう工夫していること。

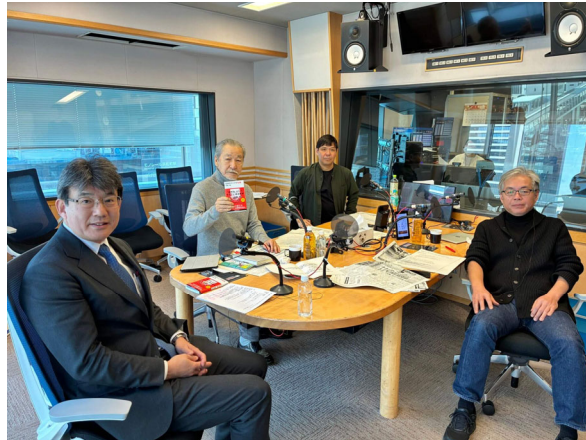
その後のPR活動



日本経済新聞社広告記事に掲載



若者に人気のYouTubeリハックに出演



大竹まことのゴールデンラジオ（文化放送）に出演

他にも、一般紙（読売新聞，朝日新聞，中日新聞，東京新聞等），専門紙，各種雑誌，fromDOBOKU，インフラ自分ごとラジオなどなど

新書の発刊とその後のPR活動を通して感じたこと

- Amazon：講談社新書ランキング最高位6位？本の売上ランキング最高位385位？
- ReHacQ：前編約16万回再生，後編約9万回再生（3月末時点）
- プレジデントオンライン1月の月間アクセス数第1位：日本の高速道路はもうボロボロ・・・NEXCO3社がせっせと高速料金を徴収し続ける「やむを得ない」事情
- 現代新書1月閲覧ランキング第1位：【日本のインフラ危機】意外と知らない、なぜ昔のコンクリート構造物は長持ちするのか 高度経済成長期に集中整備されたインフラの一斉老朽化
- これまでのところまあまあ売れているが、すごく売れているわけではない。同期の「新書 世界現代史（川北省吾）」「松本清張の昭和（酒井信）」に大きく水をあけられている。→著者の知名度の問題もあるが、これこそが土木の現在地



- 国民はあまりにインフラのことを知らない。
- それは我々土木技術者・研究者がいかに国民にインフラの現状と将来像を示していなかったか？ということに他ならない。
- 本書は土木の社会に対する反響を映した社会実験

日本のインフラ危機を脱するには？

少なくとも断言できることは、
今の延長線上に解はない！



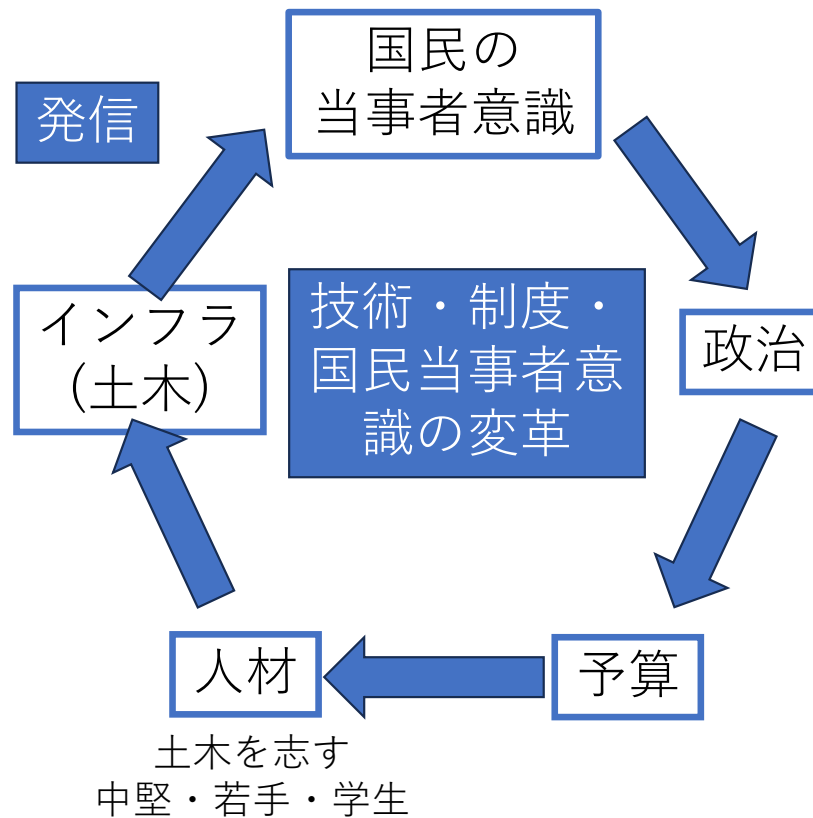
技術・制度・国民の当事者意識の変革（過去を断ち切る）

- 技術：SIP，高度な技術（ハイテク）と簡易な技術（ローテク），適材適所，身の丈に合った技術
- 制度：群マネ・トリアージ・終活
- 国民の当事者意識：全国民当事者・インフラの自分ごと化
土木業界・土木学会の内向きから外向きへの体質改善

インフラを自分ごと化するには？

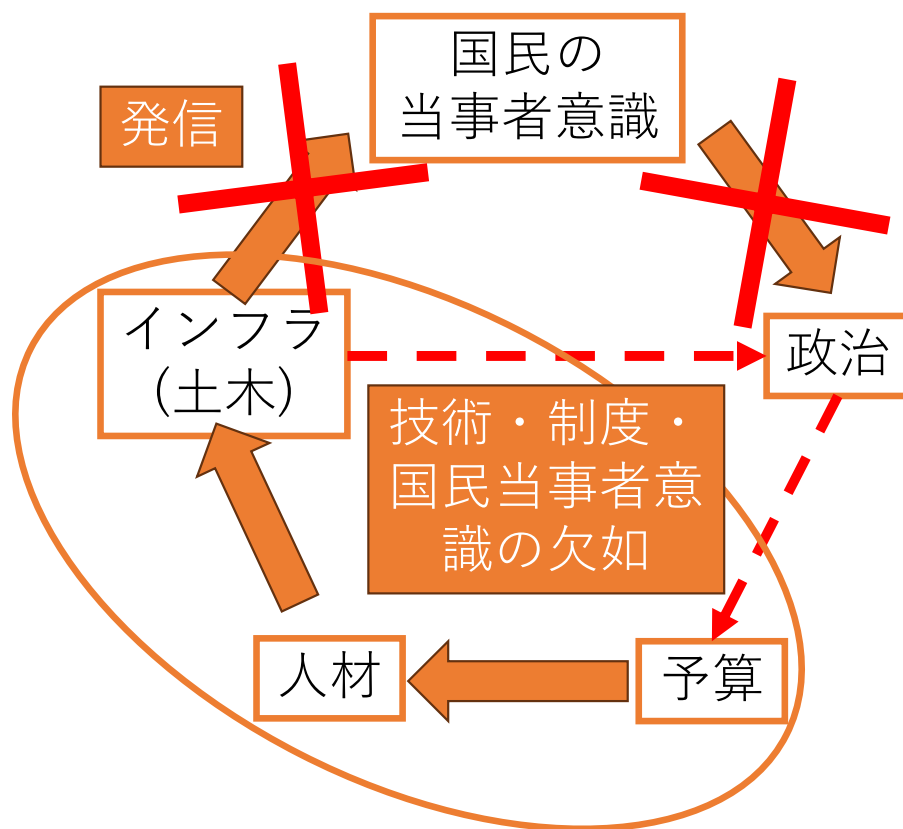
- ①インフラ自分ごと検討会委員→②土木学会会員→③国民
- インフラ自分ごと検討会委員がインフラを自分ごととして考えるには？→夏休みに同名のお題で全委員が作文を執筆
→様々な思考を言語化し共有
- 土木学会会員がインフラを自分ごととして考えるには？
→「インフラ自分ごとラジオ」の発信，本報告会，9月に行われる全国大会検討会などを通してディスカッションの場を設ける。
- 国民がインフラを自分ごととして考えるには？
→国土交通省や土木学会からの国民に向けた積極的な情報発信（内向きから外向きへの体質改善）

インフラ老朽化問題を改善する好循環 我々の目指すべき姿



- インフラに対する国民の当事者意識が変わらなければ政治は動かない。
- ↓
- 政治が変わらなければ予算も人材も動かない。
- ↓
- 予算も人材も動かなければインフラは変わらない。
- ↓
- ゆえに、インフラを変えるためには国民への発信が不可欠。

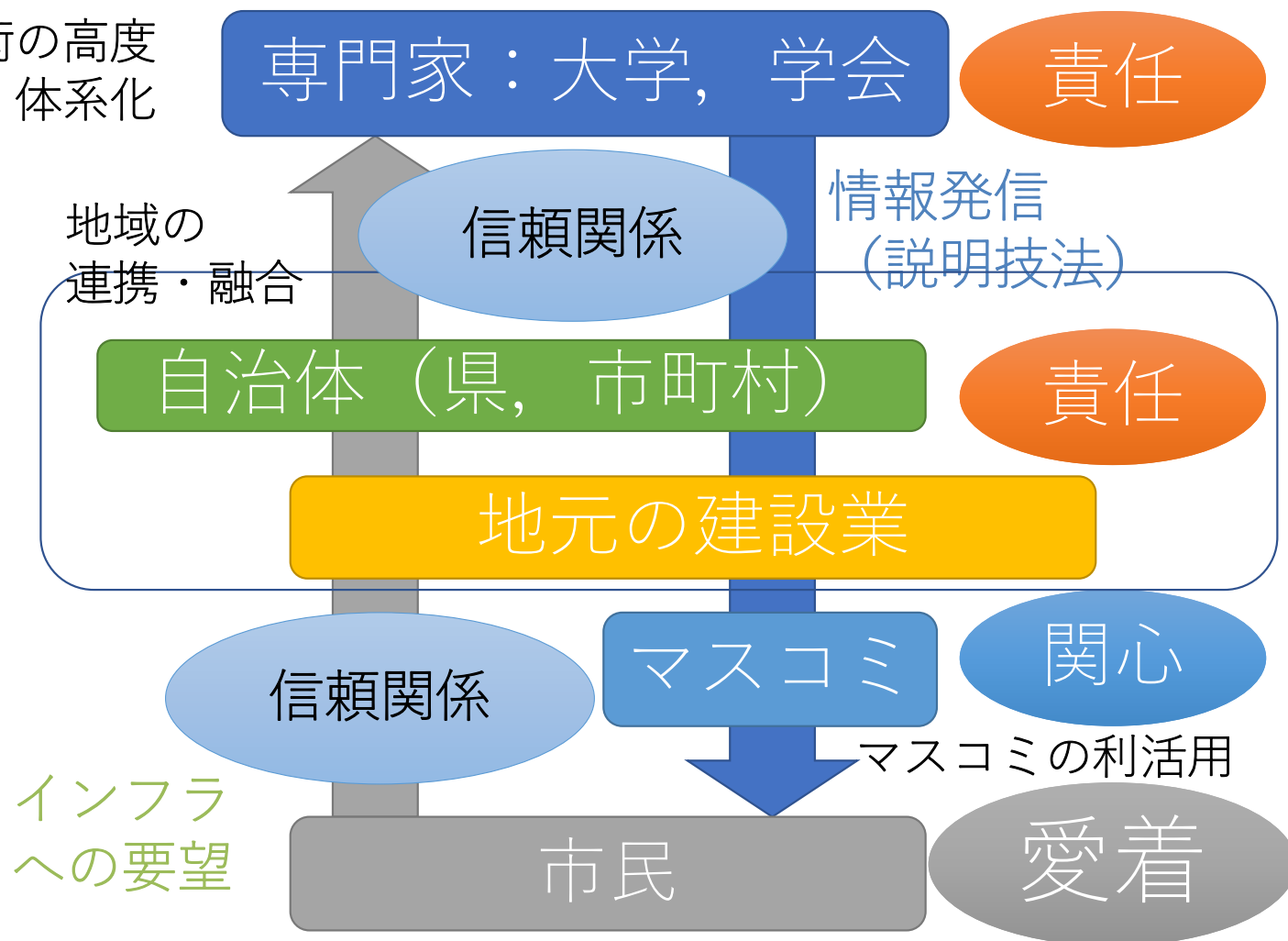
実際は？



- インフラ老朽化の現状について何ら国民に発信していない。
↓
- インフラに対して国民が無関心であれば政治は変わらない。
↓
- 政治家への陳情により、予算と人材を確保？
↓
- 限られた予算と人材の下でのインフラメンテナンス

産官学民の総力戦によるインフラマネジメント

技術の高度化・体系化



私の目指す地域づくり (ふくしまを例に)

- 脱原発、2040年再生可能エネルギー100%
- 過疎化・高齢化の進む中での地域づくり
- 豊かな自然と天然資源（水、木材）、地域力



インフラの自立から、エネルギーや水の自立、そして医療・介護・防災の自立へ

コンパクトシティー択ではない**自立共生型地域モデル**の構築と発信



まとめ

- 今の延長線上に解はない！
- 技術・制度・国民当事者意識の変革と内向きから外向きへの体質改善が必要
- まずは自分たち（検討会）から→土木学会内・業界へ→最後は国民の自分ごとへ
- 土木学会の分野横断・融合&産学官民の総力戦
- 自分の活動範囲（守備範囲）を少し広げることが大事で，その上で他分野（構造系・計画系・環境系）と交わる．分断・縦割から横断・融合へ（土木学会の群マネ）
- メンテナンスはインフラのライフサイクル（計画-設計-施工-**維持管理**）の一部の行為に過ぎない．
- インフラメンテナンスからインフラマネジメントへ：インフラ，マネジメントをそれぞれ再定義し，「インフラ×マネジメント」を実践
- 同じ内容でも伝える人と伝え方によって国民の当事者意識は変わる！国民に対する発信の総和が土木業界を変える．草の根活動とメディアを活用した発信の両輪（地道な努力&適度なPR）
- 国民への発信を，国交省と土木学会が主導し，我々個人も心掛けるべき！